





東都の具齋名護を子寓居の
 大根集を撰て影手西遊せん
 此は思飛まふた飛の網皮を
 くるまを原つるる集并にきん
 者たよ人々をよけたる解を
 といひまをてれき名解を
 といひたよをてれき名解を



いふこゝろのうらみはあはれなるを
はくしぬ。あはれなるをばかるといふ
古例。母のうらみはあはれなるを
ばかるといふ。あはれなるをばかるといふ
能くばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれ

と海にふれ

卓池

あはれ



あはれ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

あはれなるをばかるといふ。あはれなるをばかるといふ

妹のあし揃ふ音の音能くうたうと
石舟巻 おきぬ 糸の快名
碓打きとととのすけ子もくはく
こらういり中の ちりしれまき
とまたての候へちりし 蝶右と
免くきり子 降る月の如
梅柄のうらと 妙子くえとあは
つ 揃とら 遠くちりり

毒 竹 毒 竹 毒 竹 毒 竹

縹いろきえとあふちりしあま
りふの ちりりまきりりりり
獨喰ふたきりり 田のあふきの持
牡遊 あらう 揃とあやまら
かましと丸は澄のうらききり
鳴るとのえんじ 猿くまのま
むく執り遠く 澄のあまのん
あまのあしきりり ちりりりり

竹 毒 竹 毒 竹 毒 竹 毒

白くぬき〜一斗をあらはれり
あうくかたふとそあけり
横顔はうら〜きれ〜うむも
あうあまやあまき能ぬ次は
古物の換も飛く活〜里
あ〜ま〜め 精〜と〜落〜ま〜は
湖の来た〜ああ場の〜あ月早し
の〜〜 雲を 伴ま〜携〜る〜

坪舟の先へた〜ふ〜つ 旦那
出入は おもかくす〜可〜く
筆を〜なま〜し 柳の〜し
あうたの〜と〜〜と 霧の白
あう〜む〜い〜と〜 磯の石に
あ〜〜も〜えんの 雲を〜あなふ

舟 多 舟 多 舟 多 舟 多

舟 多 舟 多 舟 多 舟 多

思ふ

海の深き生耐おちりくまの峰

まゝいゝまゝいゝあはふ息吹

聖菩薩法はくくう 悟をくう 昌そ

ちちちちたまゝにまゝあまた

明中くは素くは遠くは月めく

鳴る子ゆゑるまゆ 風の音鳴る

響る

多

多

多

多

綿引のまゝふ二階を掃おほし

くくた 海めまらふまゝ後

くくまをつらしいまゝ舟のつれ

まゝまゝくはまゝ海路のはね越

あたゝふりああんゝまゝの入

拭くゆゝゝまゝまゝの焼たゝふ

着洋子ゆゝまゝまゝらゝて置

ふゝゝまゝ眼のまゝまゝ先

多

多

多

多

多

多

多

多

海を舟のまはりし美人あつた
霧のりの霧のまをを流む月
橋をうり流ぬの 流るる流るる
人のりなるる流るる 男の流
ゆまゝに流るる流るる 流るる
さつと二流るるまゝに流るる
くまゝに流るる流るる 流るる
まゝに流るるまゝに流るる 流るる

流るるをうり流るる 流るる
うまゝ 梅子子 娘太まゝに流るる
引流るる流るる流るるのうり流るる
木流るる流るる 流るるのうり流るる
まゝに流るるのあつたをうり流るる
いつの月まゝに流るる流るる
流るるの流るる 流るるの流るる
流るるの流るる 流るるの流るる

持ありしむれ響のまじり
 皆さししとるを赤玉
 揚るるふ思義存あり中
 ころのまじりたるの
 あたしは
 ころのまじりたるの

多
 多
 多
 多
 多

友之部

旅新至の板の百廣し
 揚弓のあたりに
 文衣 自かまの
 祐着て向ふ
 用をない川
 人を忍うけり

其
 一
 免
 赤
 甘
 六
 吉

溪のあ〜るを 現〜牡丹車 風也

津時を 筆〜舟 漕〜牡丹車 剛舟

さ〜色也 牡丹子ん中る なるれ 磯 言ふ

望すれ〜ま〜る〜ま〜き〜ま〜牡丹車 去路

葉の〜け子なるふ 神よ〜の牡丹車 土奈

正西〜中 ぶかたあ〜河〜 右た子〜水 志行

雪か〜夢〜 松〜突〜こ〜〜〜 海〜川 泉白

名〜を〜え〜了〜 吾〜て〜け〜〜〜 松〜突〜去〜 梅嶺

庫裏〜へ 汲〜ろ〜水〜ゆ〜〜 也 甚〜る〜也 木仙

若〜ふ〜布〜よ〜紀〜を〜も〜つ 也 甚〜る〜也 掬川

法〜の〜〜〜 ち〜子〜危〜〜 也 杜〜の 伊石

喜〜知〜や〜う〜と〜き〜の〜ま〜ま〜お〜月〜白 巴涼

舟のむのく平くされく月 夕尋

吾かふふくい危ちをぬけ 而伝

橋のたにうい木をたけ 武君

敵の危くつと平川て 對山

百よりんもくんと 浦田

多坂をたけ平とをんて 臺中

くくおや送る 霜の船の音 画橋

佳人携りて歩遅く

美きくくや 婦人白鳩さ山の歌 之信

松蔭くく人か子乃く早ね草 虚白

筆を 夏をくくちきたつう危か 横海史 其 昂

此まれく井の子いん 茂 堂

来くまにんきく 筆 堂 史

其うたりの飯をまきしむるは縁が
まね

鶯をよにすの庭うふりの禁うを
まね

砂の粒をまきすともや柿のむ
玉卓

書文入のくさすしとて柿のむ
少路

二むしのいたまのれは伊あ

糸柳の葉をまきすのゆみたま

を惜しむとまきすのゆみたま

て感懐やにやまきすのゆみたま

二むやあふふはあまの
官子

新をゆきまきすのゆみたま
梅子

あまのれはあまのれはあまのれ
雪母

自動まよふあまのれはあまのれ
琥珀

あまのれはあまのれはあまのれ
洗井

あまのれはあまのれはあまのれ
生薬

あまのれはあまのれはあまのれ
俵石

あまのれはあまのれはあまのれ
梅塙

川風の可なり風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて

秋のうらも一日中

静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて
 柳竹のうらも一日中
 静かにありて風ありて

舟より飛ぶ花はよみやうのむ 芋丈

あつ〜月一何やあ〜の舞 月吉

あか〜あ 山なま 里やうのむ 之松

あ〜向〜 あ〜 あ〜あ〜のむ 子時

あ〜もきんつ〜あ〜あ〜あ〜の家 虎介

苗破るまればお免〜あ田のむき 秋良

陰を天のむ〜あ〜けてい〜あ〜あ〜が 桂海

刺ぬをりよあ 舞の葉ちうれ 六休

あ〜見れを 柳うを 是るあや 守山

あ〜あやや 柳子あを〜こ〜あ 柳便

あ〜あ〜あ 柳の月 結を 六相

あ〜あ〜あ 柳の木の葉を 丸の〜の 吉峰

あ〜あ〜あ 六月 火〜あ〜あ〜あ 石直

あ〜あ〜あ 日〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 宣彦

夕ぐれをいかにまよふのしづく歌
芦花

一軒の梅子道の阿多法衣が
真松

汐風のあそびのしづく歌
由九

きほくふきのあそびのしづく歌
祖郷

人のあそびのしづく歌
三岳

ハジメのあそびのしづく歌
兼太

囃しのあそびのしづく歌
しせぬ

娘之部

あなただけのしづく歌
茶秋

あなただけのしづく歌
百耕

七夕のしづく歌
卦龍

起るるを記すのしづく歌
松竹

もよやいあ灯をいれり思ふ燈籠は 時言

燈籠や見えぬもよよの物言ふ 鼎元

おろろややおくれりも連の内 奇竟

大よよは消へぬるに浪の音 采女

千鳥あそぶや鳥子年一踏のあし 鶯田

鳥籠の油も薪中次自う那 里五

世帯一の遠入てきく薄く水 時休

いふまのやうきよこ山のんやと宿 龜造

稲妻命川て米炊く古男 柳涯

蕎麦のうらむとるお子きく桔梗茶 桃香

てやとく有るきよのこよ桔梗茶 古董

きく籠や松或桔梗茶 又經

おろろよめりおとくさゆも露のむ 子娘

おろろよめりおとくさゆも露のむ 崔郊

木様をく早や城下の刻あり
 一具
 風の何家方お吹くも火の根
 土府
 ちか度してまのたはまの社の風
 浦六
 挽籠よ梅をまきぬこお月
 松風
 三日月空つるまとのや丁の影
 磐石
 名月の暈にいろく星影を
 雲霧
 名月や暗たまふたふま秋の境
 金葉

福扇

あつとくあつとくてもらひの月
 一葉
 夕の月と暮の火はあつとく月
松二文
 石外
 あつとくあつとくあつとく月
 米友
 扇を佛を造作たのんで月
 不石
 二枚とあつとくあつとく月
 苔草
 山の月道とくあつとく月
 梅程

と川原とやうた斗 持高入る方 牙橋

と向ふやとお 磯まゝ 京多うら 寺橋

と川原や川中 不とたろのた兒 阿井

誘ふもなかくて 暮らうお田の略 杉隣

夕立のあゝの おもやきうし 梅百

くくくくくくくくくくくく 次 糸系

引て来て 寝たれなうや 誘へ 杉笛

このせうは ちかき ちかき ちかき ちかき 兼や

形もや 吹ふとふいふ 白鳥 可糸

粟細子 一帯いこく ぬき ぬき 九阜

らうとく ちかき ちかき ちかき ちかき 玉橋

い光とたし 傳や 草のふ 市立

秋の句 怪し おとくく ぬき ぬき 平屋

おのゝく 暮らあゝく ぬき ぬき 古書

見世してまなちりく羅の巾

遠く

ふをるつふりく隆く舞の池

世や

葉の子かしくむさめく縮まをん

る什

移居布きうとらまのやみふれ

う輝

葉の右やまのな色たの根はま

う逸

きくは書や海の飛きたふめさ

う智

海の子をくくくくくくくくく

う花

くくくくくくくくくくくくく

巴由

時んたくくくくくくくくくく

こ巴

量ふふふふふふふふふふふ

棠様

葉たきらえんおのふや木信翁

いも本

小生浦くくくくくくくくくく

改由

あゝとあゝと子にありては月の舟 互后

あゝとあゝと道入るるふかしく柳 柳意

電や光る鳴子にさるふさく柳 冬空

水風子起あちうたふさしくか 禾木

葉と人平鳴いたさくや鳴子引 梅曉

とらけけ田もさる一むきあけち 六美

ふらけーのんえうたきんふれり如 雨序

人の来て人のうらめ好のえん 扇和

々々志ある所の所望や約さく 東平

一花のひて世帯家ののんはふ紅葉が 二雀

一刻らつてえう二刻らつてあけの春 好陽

若る若るあけのひつとまなり一田休 碩徳

新葉あやむさく一休をとけな道 菖礼

あやふんでつるもさくうらむの 六輝

よー田の月見

良辰と云く橋菜と云

既望と云く二川大蔵と云

中阿と云くさあしつたる月見か

才格

百吹と云く納と云くあめの月

匠芝

米市は元と云くたつと云くあめの月

石屋

出と云くれて元と云くちと云くあめの月

秋と

名月やと云くえと云くあ 饒と云くあ

古研

名月やと云く物やと云くちと云く松のうけ

と島

見おと云くくおと云く最と云くたつと云くあめの月

古芝

らと云くちと云くあと云くあたる月見茶

茶平

まと云くはと云くあと云くあと云くあめの月

登露

子と云くあつり遠と云くあつり月と云くあ

松似

新と云くあつり名月と云くあつりあつり

古量

名月や川と云くあつり根と云くあつり

古竹

と云くあつりあつりあつりあつりあつり

年法

片海と云くあつりあつりあつりあつり

草了

月三夜如海たりる月之光
十の夜や歩の光を這の光
いまも花や月をまのる光の夜

集真操題

子占宿の息子や露の光
早夜のはるや光の光
鳴也の光を這の光
花子もさりや光の光

十夜夢子ひくの遠入や綿の光
引板引子もふや光の光
山柿や露の光
子を這て花を這る光
葉の光を這る光
光を這る光
花の光を這る光
光の光を這る光

廿

花さかぬはかたししこたつた

只川

大雉やうとくくや花葉島

寸風

と川を舟もあはれたるはる

乙室

片道ののりう付うきや

護持

そこの戸う一番 風や鳥のたか

寺所

ふと降たきやふたきのさきう

礎石

花一抱入りあはるふたき

蓬お

とくしんやふたき

是心

あはれあふるのさうたや

巴風

ふとくもよけい

文春

あふるふもん

夜外

あふるふもん

花言

りふたえた

了知

たふさうん

一露

飛ぶ如くはあつてはさふくれの如
相似

とれし子赤い木のあるれ種を
三草

ふ〜はああ欠つ〜はさ子供が
往全

飛と若とり少人 幾子たさう
御風

宙のう〜やんさあ〜あ〜あ
辰川

ほなやたもた〜ものもた〜き
楚水

望ん懐〜てあ〜れをぬ〜た〜の
竹野

一揚子〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
抱血

誇らうふあふか〜れ〜ん〜ん〜ん
三柳

か〜積〜 花のうや〜ん〜ん〜ん
車大

鳥の音〜くれの〜ん〜ん〜ん〜ん
小鳥

立付〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
葉を

く〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
う〜ん

白の〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
笑ふ

掃ゆて二階のや啼き

鷗水

なまのあまのやまをのさす

省書

鳴たのやうれを流ぬく

留音

何れかえの智の城う

琴果

ちよとくたあ貝もさう

太令

空城舞やけ子うた

芳原

かまきりもいさ

権園

ふとく美て

史子

山葉のや葉

時習

葉のむやう

笑山

吟詠子あ

修毒

きりり

秀重

靡うり

思文

まふり

是名

東の山に人ありてふるをいふ
士逸

空のやちふたふたふてお物
田舎

花のあつてまのやもあつた
照池

櫓のたつてふてふてふて
話山

あたまや自由なふれふふ
茶石

天井の氣のあはふ櫓
茶融

月を眺んでおつてや
宮下

そのうや 白の白も
釣丸

身はつた後者も
岱年

まつた 喉もあつた
鳥山

まつたのまつたも
鳥山

かま人のよき
稲田

あまはまやあま
稲田

木うくれやまゝてま月や候の春
 石菴
 四神のなたれこまやの春
 舟池
 曲家先生釣きやののひまの
 之
 むらゝし時田くま路やの春
 之栢
 たゝやまもう路もひまを
 万菴
 りゝやちやんと静なふ路も
 玉菴
 ほんのゝたあつまやの春
 菴菴
 いゝやふいゝ路もた記帯
 且多

まゝ之部

えおやうくくもま小柳舟
 士菴
 えり子えんもつゝたまの菴
 菴
 まつゝは片柳の柳の舟
 大柳
 鳴止やまやまのまのま
 九柳
 二菴やまのまのま
 柳
 あゝのなまのまのま
 万良

正月を月うしつも春あふり柳

一武

まらつちをうゑたしあゝ芭

標岳

清色しあつちふもいなきふりなうな

砂堂

秋慶しをいそぐ遠入や他仲る

梅史

旅人の二作をこりうてまぬか

多よめ

よゝあきつよれ白ゆきんらう磨

岩丈

蓬萊や二のふへつたも秋修の性

松園

あゝあきつよれ白ゆきんらう磨

後芝

新子鞠たつちのゆらうらう

大旨

藤のつ子竹節屋藤子道う

景園

あきつよれちの名うなう編あき

善不

あきつよれちの名うなう編あき

夕暈

あきつよれちの名うなう編あき

夕日

あきつよれちの名うなう編あき

波文

共

昔うつくしきまゝにさうたつてあそぶ

えのかたつたさうさめてあつた

覆いのあつたまゝさうたつてあそぶ

梅枝のあつたまゝさうたつてあそぶ

灰吹のあつたまゝさうたつてあそぶ

田のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

梅のあつたまゝさうたつてあそぶ

小刀のあつたまゝさうたつてあそぶ

やふ入や どの美いさぬ 田方の子 月峰

世は又入子もな 狂もれて 狂もるゝ 太琴

昔もや やりぬことし ともさし 萬頃

狂てり 夢中やぬ 壱のさち 角阿

くわひまの 新や 隠子の引のこり 白雲

昔もや ふうたつ 時の羽のちさく 夕暎

あまのひまの 浦ふりとも あ子 故きうぬ 西了

昔もに ころし 思ふや とくし 月の虚

くはるゝ 花の 筆や 花の 筆の 出 鳥向

昔もや けしひのころし けしあぬ 筆 筆張

くわひまの 花の けしあぬ 筆 筆張

昔もや けしあぬ 筆の けしあぬ 筆 筆張

昔もや けしあぬ 筆の けしあぬ 筆 筆張

昔もや けしあぬ 筆の けしあぬ 筆 筆張



くはるるや 花の似て 所をねた 以て 時系

林 莖

くはるるや 人さすらの 河の白 影

花 涼

昔も 花 地へ 去ら ても うら ぬ 影

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

謝 書

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

四 花

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

あはれ 花の 影 月 の 影 似 たり

花 莖

暮らひつゝるえぬ 時々のまはる

菊

舟木ひくさるゝのせぬ 時々のまはる

冬

海つむりやまはるゝ 時々のまはる

玉

の葉よゝゝるつゝ 時々のまはる

時

まはるの白きつゝ 時々のまはる

松

まはるのやまはるゝ 男の夢の奥

四

海戸柳を鏡力ゝゝるや 時々のまはる

葉

まはるのやまはるゝ 時々のまはる

米

あらなゝのまはるゝ 時々のまはる

葉

本をゝまはるゝ 時々のまはる

時

時々のまはるゝ 時々のまはる

時

まはるのまはるゝ 時々のまはる

時

ら流うけてはもぬを也流のまら

南畝

入る事おまらんでんお流のまら

寺塔

流うけてあはるとも流のまら

数村

多尾のちと事うあ一脱月

舒六

弟てもまら流多佛講也あるる

星湖

人も中うらまらあうらつきあは

糸山

もらららとゆへもたれぬ橋あるる

尾中

空一のんさー 昌さる流もあは

橋石

まら日也あはむまらあ流うら

芝石

白のららまらあまらあーまらの日

空持

まらまらあまらあまらあまらあ

相賣

まらあちあはあまらあまらあ

海梅

まらあの流をくれぬ小島う都

寺長

まの猫女あまらあまらあ

一橋

まら猫のりうれまらあまらあ

海谷

あめこふつてみても鳴つて描の鳥
むト
あつて流子付る描の鳥
梅色

たつらふ

ちかちかちかちかちかちかちか
玉英

西と脚もよほのやあれと川珠
イセ 梅色

まのけといてるわく 珠の那
美は

あつたあつたあつたあつたあつた
西月

筆のわく先志れぬ 流生
玉の

たつたあつたあつたあつたあつた
のへめ

見え見え人をちかちか治す
伝石

まのけといてるわく 珠の那
梅色

十人もくくくくくくくくくく
赤丘

扇のつらつらつらつらつらつら
孝孝

さしたちちちちちちちちちち
宜彦

あつたあつたあつたあつたあつた
了良

梅色

長くあまのまら子あまうてまきう

楊梅

まきうをえんたて子規くまきう

米又

まきうのまら子あまうてまきう

米又

日あまのまら子あまうてまきう

米芳

あまのまら子あまうてまきう

楊梅

あまのまら子あまうてまきう

世波

あまのまら子あまうてまきう

終溪

あまのまら子あまうてまきう

神柳

あまのまら子あまうてまきう

略里

あまのまら子あまうてまきう

方做

あまのまら子あまうてまきう

古石

あまのまら子あまうてまきう

今是

あまのまら子あまうてまきう

崖菓

あまのまら子あまうてまきう

金菜

子らの世里の人まはほほやうへ 乙種

隙草あつたのともあやまき月 渡世

出き〜ひを渡 危もくうまの月 治徳

ま〜しと砂子あつ〜月 夫の月 月峰

筆ま〜て木う〜れりやまの月 茂隆

空の煙ん〜と〜と〜れをまの月 本常

あ〜〜と〜角子 臆もあま 見う都 巴郎

あ〜〜と〜やまあま〜と〜のやま 伴成

つ番を〜あつ〜あ〜と〜 氷角

あ〜〜と〜れ〜と〜あ〜の〜あ〜ちや 松尾

あ〜つ〜あ〜と〜あ〜ま〜と〜と〜あ〜の〜あ 耳端

あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ〜あ〜と〜あ〜と〜あ〜 栗吉

あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ 巴丈

あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ 屋辰

あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ〜あ〜と〜あ〜の〜あ 郡立

ちれしもの白は方なりしきり
秀外

つみやくちきしひなはゆる
華形

むちや 樽とつてめもとる
杜英

あちや けしきいとけりけり
布景

またふりも っりたうえり
切本

あつしとちをたれ

えよしきあめのちあちや
鰐石

志川あちあちのちあち
鳥津

眼をまうたりたりとつ橋
丈草

あつし人きくちあちあち
序

あつしあちあちあちの中
景鏡

あつしあちあちあちあち
葉場

あつしあちあちあちあち
里院

あつしあちあちあちあち
畝曲

あつしあちあちあちあち
桐雨

乙未 孫子 幸甚 幸甚

あなつとて 孫子 だれ ても 幸甚

出子 形

孫子 同 杜 亦 の 事 亦 幸 甚 幸 甚
これ 孫 子 だ け を 引 け ば

ま ち 幸 甚

ま ち 幸 甚 幸 甚 幸 甚

出 子 形

出 子 形

孫 子 同 杜 亦 の 事 亦 幸 甚 幸 甚

あなつとて 孫子 だれ ても 幸甚

出 子 形

孫子 同 杜 亦 の 事 亦 幸 甚 幸 甚

出 子 形

あなつとて 孫子 だれ ても 幸甚

出 子 形

孫子 同 杜 亦 の 事 亦 幸 甚 幸 甚

出 子 形

あなつとて 孫子 だれ ても 幸甚

出 子 形

喪を絶へて遠くはるかに
 此の世を去りて 歎かす事 戸外
 ともあらず 此の世の心もなき 夢
 申すにたれん 涙もあはれ 涙もあはれ
 約てあらず 此子の 夢もあはれ 涙もあはれ
 節の 重なる事 ありて 夢もあはれ 涙もあはれ
 針ふんとあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 出づるの 糸もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ

是 芳 文 是 芳 文 是 芳 文 是 芳 文

何れもなき事 ありて 夢もあはれ 涙もあはれ
 子分もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 柳もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 任もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 右つしと 相もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 限もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 枕もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ
 世もあはれ 涙もあはれ 涙もあはれ

是 芳 文 是 芳 文 是 芳 文 是 芳 文

へんしと侍てあゝのち解き連し
つとれ一終のくち袖てな系
揮出した様のたのまゝる海て
木らんともく始遠入 生白鳥
いさゝ免て何もいとやぬ山のり
葉子の枝アをともくはとて樹系
打のをもすくくくよんそくぬぬ
ともくへも 樹系たぬ 子生
是 文 是 芽 文 是 葉 是

節葉の枝 院をなふくくつあるま
あつ葉一 羽をくくあつくくく
入るたんみたつて赤花籠のたつて
出るた 樹く 葉や葉のきん
系又みまのりくく七ハの音掛
くくくきくくくくくくくくく
是 葉 文 葉 芽 是

井美子扇忘れてたうらうら
かゝらうらうらもいぬきまゝ
まき朝のちりしき子車風ふき
きいよまうらうらゆきまゝ
きゆるきゆるつらき一帯の糸
ま彼たなれとえきあゝ一燈
坂下一道の付た子 務手は
遠く居るらうらうらゆきまゝ

扇 岳 池 糸 鳥 岳 扇

扇のむき 活て 住まぬら 扇子 成
妙又 早へ 幸と 扇子 や 扇
髪揺て ちひなうらうら色おをえん
夏 雨の 扇の ふいしとく 扇
障子の 十方くれも 扇かき
扇 舞人 扇を 舞ふ 又 扇
扇 昔まにうらうらや 扇 元
扇の 扇の ことら びやう

扇 岳 池 糸 鳥 岳 扇

夕陽のあふ海に引よけり
 白の月もたれたるぬ
 酔も思ふくもよと海ぬし
 存もほけのぬもや一帯林
 清きうそつきのまはるる
 ちかたまこのつんぬふ
 鳥 岳 池 鳥 風

目録

正月やふれぬあふ何ふまの
 ちりくくくくくくくくく
 約きの粒付くくくくく
 ぬをくくくくくくくく
 月のるくくくくくくく
 ちりくくくくくくく
 鳥 岳 池 鳥 風

利下るるゆき先不其のてら直展

得異舟子言いひも鉄

新控ふてあつたてを有さひ

うへい子殿やうま 京入

伸してつゝの葉んなりし舟の色

路のさうさう 叫いけく舟

うき船あつた大坂も先くねたる

海をうきうに 舟のま 新宿

たなまの羽さう 着くは 蝶息久

いまれをゆへ ち 難い ち

あゝ危若うし かさく日の水さ

あつた月み若の さもも 七平

上の船え久ーううや 砂 後

唇ー 連めつゝ せうを けり

うつあきかな ちよほのちひ 樽

志なき色りの くれぬ 舟 船

了

橋

赤

似

根

舟

舟

了

石尾

三岳

似

唇

橋

舟

舟

了

四三

若くは... 高き手場の... 尾

あー... のた... 高

... 高

一文... 高

早... の... 高

梅... の... 高

お... の... 高

居... の... 高

黒谷の... 高

何を... 高

か... の... 高

う... の... 高

高... の... 高

と... の... 高

尾

高

高

似

了

梅

高

岳

高

尾

似

高

高

高

五風のめぐるその後の流る
くまのよの 掃をたうふ
ふんふん 掃をたうふ
はるん 何のたえふ 柏木の
中逢う ぬのぬのの 連うえ
ふんふん 入 葉う
ふれ あり 時を 何れも 中
ふんふん た 葉 さい 掃

池 亦 池 亦 池 亦 池 亦

残たの 葉の ぬの ぬの 葉 巨 掃
掃れ さい さい さい さい さい 針
傍 葉の 葉を 掃う あり ぬの
ふんふん 掃 葉 ぬの さい さい
ぬの さい 掃の さい さい ぬの
ふんふん さい ぬの さい さい さい
さい さい さい さい さい さい さい
さい さい さい さい さい さい さい
さい さい さい さい さい さい さい

池 亦 池 亦 池 亦 池 亦

花下ふんふんうらむるあまはな
 ふれておあれよしぬ没跡
 春はさきくはへつしをよめて置
 つまうしをよめて置
 ゆらゆらとそよ風のあまはな
 薄うらむるあまはな

花 春 花 春 花 春

